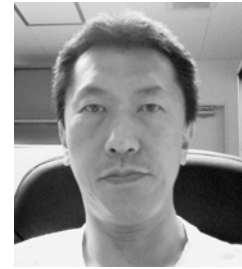


ATS 2011—The Annual International Conference of the American Thoracic Society, Denver, May13-18, 2011



三野 健

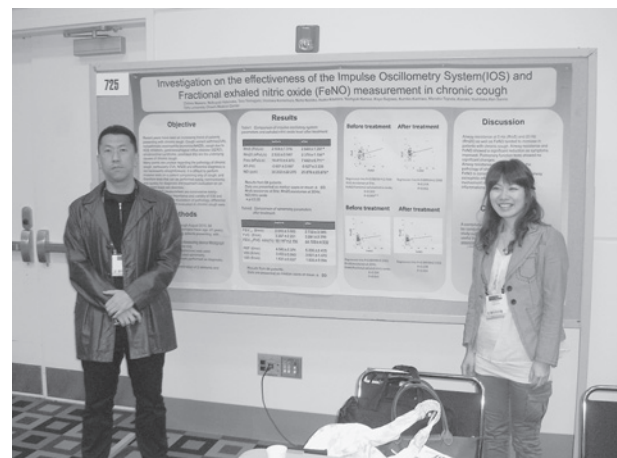
東邦大学医学部内科学講座（大橋）神経内科呼吸器内科部門

2011年5月13～18日に、アメリカ、コロラド州デンバーで開催された The Annual International Conference of the American Thoracic Society (ATS) へ、私を含む医局員4名（中野千裕、小高倫生、柏久美子）で参加した。

ATSといえばEuropean Respiratory Society (ERS) と並び、呼吸器を専攻する医師にとって最も重要な国際学会である。

開催地コロラド州デンバーは、もちろん訪れたのは初めてで、観光でもまず行くことはないであろう土地であり、なんの予備知識もなく現地入りした。空港からデンバー中心街までは、ほとんど何も無い広い平原で少々不安になるくらいであったが、中心街はこじんまりとまとまった小綺麗な街並みであった。学会場は Colorado Convention Center で、なぜか巨大な青い熊のオブジェが正面に立っており何の意味があるのか最後までわからなかった。街中にもところどころに牛のオブジェがあり、いわゆる土産物店でも、狼やバッファローをモチーフとした品が多く、おそらくデンバーは自然と動物が“売り”なのだろうが、当然のことながら、それらの動物に遭遇することはなかった。

われわれは、慢性咳嗽に対する気道抵抗、呼気ガス分析をテーマとする「Investigation on the effectiveness of the impulse oscillometry system (IOS) and fractional exhaled nitric oxide (FENO) measurement in chronic cough」という題名で発表したわけであるが、当初ただのポスターセッションと思っていたが、実際はポスターディスカッションセッションにエントリーされており、座長によりどんな形式になるかわからず、いずれにしてもフリーのディスカッションになることが予想され、発表前夜はあわてて原稿らしきものを準備した。



ポスター発表



学会場前にて

発表当日、会場は30演題程のポスターをはる小部屋で、ポスター付近でぶらぶらしていると様々な質問をされ、中には「すべてプレゼンテーションしてくれ」とか「今後どのように発展させていくのか？」等々を聞かれたが、語学力が乏しいためしどろもどろであった。同会場で、同じように咳嗽をテーマに研究しておられる京都大学の新実先生の発表もあり、研究、発表に対するアドバイスをいただき非常にありがたかった。

ディスカッションタイムの前に、座長の1人が私のところにきて簡単な質疑応答を行った。これはこちらの語学力のためす意味合いもあったと思われる。ディスカッションタイムの最後に指名があり、プレゼンテーションを行ったが、質問を受けることなく座長が時間なので終了としてくれ

た。こちらの語学力を考慮していただいたのだろうと思いい安堵するやら少々恥ずかしいやら複雑な気持ちであった。当然のことながら、自由にディスカッションできるくらいの語学力がなければ発表も自己満足の域をでないことを痛感させられた。

しかし、なにはともあれ、以前の大橋病院呼吸器内科は人材なし、自由に使える研究費も全くなく、ATS参加など別世界のことのように思っていたのだが、こうして自分たちのオリジナルリサーチで演題を出せたことは素直に喜びたいと思う。今後も継続していけるよう努力していきたい。

最後に、今回の発表に至るまで、呼吸器内科発展にご助力して頂いた方々に深く感謝の意を表したいと思う。